ラープ

～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会　女性委員会
2011 年　春　号
第 66 号

東大寺総合文化センター
（右後方、大仏殿）

目　次

■　東大寺総合文化センターの見学に参加して　・・・・・　安井　ひとみ　1 ページ
■　京都東山　早春の旅　・・・・・　仲木　有佳子　2 ページ
■　最近の仕事から（3）“設計と音楽”　・・・・・　岩城　由里子　5 ページ
■　～祝　一級建築士試験合格のお二人より～
　　入会のごあいさつ　・・・・・　仲木　有佳子　7 ページ
　　女性委員会の皆様　・・・・・　鎌田　由　美　7 ページ
■　今後の事業予定　・・・・・　8 ページ

東大寺総合文化センターの見学に参加して

安井　ひとみ

1月22日（土）10時。若草山の山焼きが行われるという日で、集合場所の大仏殿南門付近には　早や観光客の方の姿も見受けられました。

今日の見学先は昨年秋に竣工した東大寺総合文化センター。

本センターの展示室には　国宝級の仏像等が展示・収蔵されるということで当初建物全体を免震構造にすることが検討されていましたが、敷地内に鎌倉時代の遺構があり不可能であったため、展示室全体を免震とする「部屋免震」が採用されたということです。床・壁・天井を一体化した「部屋免震」を実現したのが日本発の米国式免震装置ということです。

施工会社の大林組 JV の戸本保所長にセンター内の案内・説明をしていただきました。

展示室である東大寺ミュージアムの入り口は段差をなくした特注品エキスパンション・ジョイントが採用され独立した箱のようなものになっていました。現在はまだ室内環境の測定中ということで仏像の安置はなく　横壁側から床下の免震装置を見ることが可能でした。厚さわずか１４cmのEPS社のFPS。（摩擦振り子支承）“伝統を先端技術が支える”と日経アーキテクチュアに取り上げられていましたが、日本初ということで　導入までにはかなりのご苦労があったようです。

また、多目的ホールの金鐘ホールは音響効果を高めるため木と布張りが使用され、他の室内も不燃処理された桧・杉の木がふんだんに使用されていたのが印象に残りました。

軒裏アルミキャストの使い方、シルエットを意識した床埋込照明･･･　奈良東大寺のイメージにふさわしい外観となっていたように思います。

センターを後にし、この後はお楽しみの新年会に続きました。

■京都東山　早春の旅■

仲木　有佳子

３月１２日、生駒支部による日帰り見学会「春の京都東山を訪ねる！」が開催されました。参加者一同、早朝の生駒駅前に集合し、バスで一路京都へ。

この日の前日、東北地方太平洋沖地震が起こりました。京都へ向かうバスの中では、参加者の皆さんも、これまでに見たことのないような被害の状況を報道で見て、戸惑いを隠せない様子でした。
そんな中、生駒支部長は挨拶の中で、
「正直、この見学会も予定通り開催するかどうか迷ったのです。」と話されました。
「いろんな方と相談して、今回の見学会の目的は研修なので、予定通り開催することにしました。」
その言葉を聞き、今日一日、建築士として知識と技術の研鑽を積むべく、良いものをたくさん見て、一つでも多く心に刻もうと私は決意しました。

高速道路は渋滞もなく、バスは順調に進みます。京都駅八条口を経由し、蹴上に到着。

この日は、庭園ナビゲーターとして、造園家の江夏大三郎氏にご同行いただき、作庭のお話などを聞かせていただけるということで、とても楽しみにしていました。

まずは、山県有朋が明治２７年から２９年(1894-96)に造営した別荘「無鄰菴（むりんあん）」へ。

細長い三角形をした１０００坪を超える広大な敷地の大半を占める無鄰菴の庭園は、山県有朋自らの設計監理により、造園家・小川治兵衛が作庭しました。近年の庭作りでは、雑木の庭は一般的となっていますが、当時では珍しかったそうです。

庭園内には、疎水から水が引き込まれ、滝や池がいろんな表情を見せてくれます。小石を水面から少し出るようにちりばめられ、まるで自然の川のような表情のところもあります。

雑木の美しさや自然の川の流れの表現など、それまで主流であった封建制度を象徴するような大名庭園とは全く違った手法を使い、小川治兵衛は自然のありのままの美しさを引き出したのですね。

さて次は、「南禅寺金地院（こんちいん）」へ。

「金地院」の庭は小堀遠州の作で、寛永８年から翌９年（1631-32）に造営されました。

先程見学した､庭の中に入り一体となる回遊式の｢無鄰菴」の庭園とは対照的で、一方から石組で構成された鶴島と亀島が対峙する場面を眺める庭です。白砂は海洋を表し、木々は山を表します。自然のもので別の景色を表す枯山水は、見る人とその景色を対峙させます。方丈の縁側に座り、庭をしばし眺めていると、心地よい緊張感が生まれてきました。

午前中の内容だけでも、見ごたえ充分な内容でしたが、さらに午後の部に続きます。
まずは、午後の部で見学させていただく電化厨房を採用されている京料理旅館「よ志のや」にて、京料理に舌鼓。

季節のお料理や豆腐料理を満喫しました。
引き上げ湯葉は格別でしたよ。
さて、そんなおいしいお料理を作った厨房は、予想以上にコンパクト。

電化厨房ならではの立体レイアウトが採用され、作業動線がコンパクトにまとめられているそうです。
また、温度管理や時間管理による調理のマニュアル化がすすんでおり、人件費のコストダウンにも一役買っているとのことでした。

おなかがいっぱいになったところで、都ホテル「佳水園」へ。建築家　村野藤吾氏による設計の名門ホテルです。

都ホテルの和風別館として建てられた｢佳水園｣は、外国人の宿泊客でも気軽に和式の生活を体験できるよう、靴履きのまま利用するホテル的要素が取り入

れられています。
平面構成や軒の薄さ、庭との関係などに数奇屋の典型を見せる「佳水園」ですが、軒の納まり、室内の設え等、形式にとらわれない村野流のデザインが多く施されています。
モダニズム建築ＤＯＣＯＭＯＭＯ１００選に選定されているのも充分に納得です。

中庭には、滝の水をお酒に見立て、白砂敷きに芝で瓢箪と杯が。

ちなみに、「佳水園」の庭園は、最初に見た「無鄰菴」の庭を創った小川治兵衛の長男である小川白楊による作庭です。

内部では、都ホテルの方が「佳水園」について、いろんなエピソードを交えて丁寧に説明してくださいました。
エントランスやロビーを歩くと、いたるところに村野流のしつらえが。

参加者は各々、眺めたり、頷いたり、写真を撮影したり、語り合ったり･･･。

形式にとらわれない村野流数奇屋は、見応えがたっぷりでした。

そして、名残惜しいところですが、予定の時刻が･･･。庭園ナビゲーターとしてご同行いただいた江夏氏に、都ホテルのロビーで一同からお礼の拍手を。
作庭についてのお話を聞きながら鑑賞することができ、たいへん勉強になりました。本当にありがとうございました。

京都東山界隈は個人的にも好きで、何度も訪れた場所でしたが、また新たな魅力を発見しますます今後も訪れたい場所となりました。

造園家の表現、建築家のしつらえ、京料理の粋。それぞれの思いを受止め、吸収し、今後の活動に自然に活かすことができるようなるよう、しっかりと心に刻んで、奈良への帰路へついたのでした。

設計と音楽

岩城　由里子

趣味は何ですか？と聞かれると、とりあえず「音楽です」と答えます。音楽鑑賞も好きですが演奏するのも好きです。小さい頃から長い間ピアノを習っていたこともあり今でもたまにピアノに向かいますが、仕事の事も子どもの事も何もかも忘れてリフレッシュする事ができます。ピアノの他は大学時代にオーケストラ部でチェロを弾いていたこともありましたが、これは途中で挫折しました。チェロには未練がありチェロのハードケースを持っている人を街で見かけると羨ましくなります。いつか時間が出来ればチェロ教室に通いたいと秘かに思っています。現在の音楽との主な関わりは合唱です。学生時代は全く声楽には興味がなかったのですが、どこでも練習できる気軽さもあり 10 年前より始めました。現在所属する団ではオペラの舞台に合唱で出演する機会があり、練習中に一流のプロのソリストの歌声を至近距離で聴くことが出来るという、なんとも贅沢な時間を味わうことができます。声楽に触れるようになって、楽器にはない人間の声の円熟した魅力に感動しました。合唱では各パートの声を合わせることで一つのハーモニーが出来上がる（構成される）ことが練習を通じて体験でき、とても勉強になります。最近は色々な音楽を聴くときにも「この１音が無ければこの曲が成立しない」陰に隠れた１音を探すようになりました。

子どもの頃から音楽に関わっていたこともあり、大学の卒業設計は建築のイメージを音楽から取り込みたいと思いました。当時ピアノで練習していたムソルグスキーの「展覧会の絵」を元に美術館の計画をすることにしました。この曲は、ムソルグスキーが彼の友人であったヴィクトル・ハルトマンの遺作展を歩きながら、そこで見た 10 枚の絵の印象を音楽に仕立てたものです。ムソルグスキーが絵を見て作ったその曲を聴きながら、曲から建築を想像する作業をしました。曲の構成やリズムや和音、変調などを常に頭の中でうたいながら建物をイメージしました。この曲は組曲ですので１曲につき１つの小さな建物を設計し、中庭を中心にそれぞれの建物を回廊（曲の途中で入るプロムナード）でつなぎ、最後のキエフの大門という曲で大きなシンボリックな門をつくりました。（これは最終棟）その作業が大変面白かったことを思い出します。

その後も音楽と建築の関係に興味がありましたが、この度、オーケストラ団員のご夫婦（ヴァイオリン奏者とヴィオラ奏者）の住宅を設計させていただくことになり、現実の事として音楽と建築について考える機会になりました。30 数坪の木造住宅ですが、たまに仲間と集って弦楽四重奏が出来るような空間がほしいというご要望でした。日本建築や日本の音楽が「静」で「間」であるなら、西洋の音楽は「動」であり間を埋める「装飾」でもあります。しかし装飾には頼らず、木造の構造と空間構成の変化による動き、規則性を強調しないリズム、それらから「長調から長調への“転調”」を感じる音楽性（躍動感）を内包させた空間にしたいと思いました。“転調“のイメージの表現としてホールを中心に建物を 45°角度を振りました。一つの空間に直線的角度があり前後に連続性があることが、同じ曲の中での基調の変化と同じように考えました。また建物を 45°振ることにより、135°の拡がりが外部の玄関側と庭側に出来て、台形の敷地に広い空間を２カ所設けることが出来ました。吹抜けのホールに杉丸太の梁を十字に架けました。十字に架けたのは、オラトリオの潜在的なイメージです。空間に掛かる十字の梁は丸太であることが必須でした。天空から見たとき、敷地の中のその部分に力強い丸太の十字架が存在することが、今回は音楽のイメージを成立させるための全てでした。（実際には屋根があるので天空から丸太は見えません。）

その他、ところどころに見える化粧梁には勾配天井に合わせた長さの違う束を乗せてリズムとしました。吹抜けの照明器具は４か所に小さいペンダントの照明器具を吊るすことにしました。集光を考え不規則に配置しコード長さもランダムにしました。平面的にも立体的にも考えてのことですが、少しの違和感も感じることなく納まるかどうかは吊るす直前

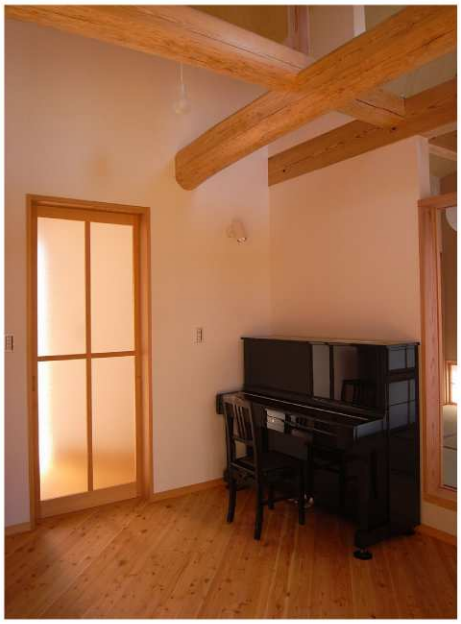
まで心配でしたが、特に問題なく自然に納まりました。

ホール自体はそれほど広くないのでギャラリー席は2階へ上る階段です。上から空間の変化とともに音色を感じることが出来ればと思いました。音響は建物が出来上がってみないとわからないものですが、狭い空間ながら天井を高くして弦楽器が豊かに響くようにと思いました。

先日、無事引き渡しも終わりピアノが設置されました。ピアノが入ると急に音楽の空間らしくなります。階段の途中からホールを見下ろしながら、弦楽四重奏が響き渡る日を想像しました。

設計段階のこだわりは、傍から見ると理解できない事もあるだろうと自分でも思いますが、出来上がった空間のデザインや建物の品性に対する責任は他の誰でもなく設計者にあります。施主の意向通りなら何でも良いわけでもなく、プロとして、そして現実に物をつくる者として自己研鑽していかなければならない部分だと思っています。仕事をする中で「ここをこうすれば良かった」と思うこともたくさんあります。次こそは！次こそは！もっと良いものを作れるようになりたいと思います。

吹抜けホールに十字の杉丸太梁



ピアノのある空間

音楽の家

リズム感をもたせた吹抜け

入会のごあいさつ

仲木　有佳子

１月に入会させていただきました仲木と申します。どうぞよろしくお願いします。建築士会には、ずいぶん以前から関心をもっていました。この度、奈良県建築士会に入会することができ、本当にうれしく思います。

私が建築を志すきっかけとなったのは、１７年前に起こった阪神淡路大震災でした。

震災が起こるまでは、建物が建っているのは当然だと思っていました。

しかし当たり前に建っていた多くの建物が、震災で倒壊しました。

当たり前のように使っていた建物（場所）がなくなると、街がほとんど機能しなくなりました。

はじめて建物（場所）の大切さに気付きました。

そして、建築の仕事に携わりたいと思うようになったのです。

当時、すでに社会人として公立中学校で働いていましたが、ゼロからの再出発でした。

そして今、こうして建築の仕事に携わるようになり、ますます建物(場所)や空間の大切さを感じています。

先日起こりました東北太平洋沖地震では、これまでにない規模の被害の状況が報道されています。

被害に遭われた皆様には、心よりお見舞い申し上げます。大切な場所を失った悲しみは、どれほどのものでしょう。なんとか１日も早い復興をと願います。

一市民として、建築技術者としてできることは何なのか、ずっと探し続けていきます。

建築士会の開催する技術講習や見学会などは、とても興味深く、時間の許すかぎり参加していきたいと思います。活動を通して、いろんな経験を積み、視野をどんどん広げていきたいです。

そして、たくさんの方と出会えることを楽しみにしています。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

（仲木様）

女性委員会の皆様

鎌田　由美

いつもお世話になり有難うございます。

この度、フープご担当の前田様より「 一級建築士に合格した苦労話など書いて下さい。」との連絡を頂き、筆をとることになりました。

二級建築士とインテリアコーディネーターの資格をもって仕事を続けておりましたが、4年前に一念発起、一級に挑戦する事に決心しました。学科試験後、〇〇学院の製図コースで引続きお世話になり、最初の課題に対しなんと 20 時間もかけてトレースしました。あまりの遅さに恥ずかしく、講師には「10 時間でかきました。」と嘘をついてしまいました。

しかし、2ヵ月後の本試験前であっても、作図時間を 4～4.5 時間までしか短縮できず、次年度も、同じ結果に終わってしまいました。

再度チャレンジするか長い時間をかけて悩みました。

試験制度の改正により、学科の科目数も 5 科目に増え 製図試験の内容も記述等が加わることになり、のろまな私にはさらに負担のかかることは必至です。

それでも、このまま終わりたくない、まだまだ努力の足りなかったところが多々あったと思いもう一度挑戦することにしました。

2 回目（通算 4 回目の）製図試験でようやく合格することができました。

結果発表後、地方に暮らしている大学生の息子にメールをすると「長いこと頑張ってきて良かったね」と返事が返ってきました。本当に長かった・・・

昨年の製図試験前の 7 月には、女性委員会で平城遷都 1300 年祭のイベントに参加させて頂き、とても有意義な時間を過ごすことができました。

振り返ってみると、昨年はそんな楽しい時間を頂いたり、ゆったりと仕事をさせて頂きました。また、暖かく応援して下さる方々に励まされ力を与えて頂き、感謝することばかりでした。この場をお借りしてお礼申し上げます。

一級建築士の資格に恥じないよう、これからもさらに勉強と経験を重ねていきます。ご指導宜しくお願い致します。

（写真右：鎌田様）

今後の事業予定

平成 23 年

□　4 月 11 日（月）～5 月 20 日（金）
　　専攻建築士制度審査・登録申請書受付

□　4 月 25 日（月）～5 月 13 日（金）
　　一級建築士試験申込書配布

□　5 月 9（月）～5 月 13 日（金）
　　一級建築士試験申込書受付

□　5 月 18 日（水）
　　総会（春日野荘）

□　5 月 19 日（木）
　　「光雲荘（松下幸之助邸）」と
　　枚方の宿場見学会

□　5 月 31 日（火）
　　平成 23 年度第 1 回定期講習（春日野荘）

□　6 月 3 日（金）～4 日（土）
　　「静岡・箱根近代建築の旅」見学会
　　教育事業委員会・女性委員会・青年委員会
　　合同事業

□　7 月 3 日（日）
　　二級建築士試験（学科）

□　7 月 20 日（水）
　　支部長会・理事会

□　7 月 24 日（日）
　　一級・木造建築士試験（学科）

□　8 月 25 日（木）
　　平成23年度第2回定期講習（奈良県産業会館）

□　9 月 11 日（日）
　　二級建築士試験（製図）

□　10 月 9 日（日）
　　一級・木造建築士試験（製図）

＊平成 23 年 3 月 11 日に発生しました東日本大震災でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げると共に、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。
この為、平成 23 年 7 月 8 日・9 日に開催を予定されていました「平成 23 年全国女性建築士連絡協議会（京都大会）」は平成 24 年 2 月開催予定に延期となり、同 8 月 20 日に予定されておりました「第 54 回建築士会全国大会（大阪大会）」は中止ということになりました。
現地からの報道を目にする度に自分自身の無力さを思い知らされます。今後私達に何が出来るのかを女性委員会でも協議をしながら事業を進めて行きたいと考えております。皆様の御協力をお願い致します。

女性委員会委員長　　藤山　久仁子

～編集後記～
フープ編集の担当をさせて頂き、あっという間の 2 年間でした。平城遷都 1300 年祭記念事業にも参加させて頂き、フープ特別号等たくさんの方々にご協力頂き本当にありがとうございました。
フープ特別号の際には、編集が大変で前田さんのご自宅に日が変わるまでお邪魔させて頂いた事、大変でしたが楽しい思い出です。今後も女性委員会の皆様よりパワーを頂きながら頑張ります。
本当にありがとうございました。　中西佳奈